

# 岡山県感染症週報

2011 年 第 27 週（7 月 4 日～ 7 月 10 日）

**岡山県では『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中！（6 月 23 日発令）****◆2011 年 第 27 週（7/4 ～ 7/10）の感染症発生動向（届出数）****■全数把握感染症の発生状況**

- 第 25 週 2 類感染症 結核 1 名（50 代 男）  
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名（O157 児童 男）  
 第 26 週 2 類感染症 結核 2 名（20 代 女 1 名、70 代 男 1 名）  
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名（O157 30 代 男）  
 第 27 週 2 類感染症 結核 1 名（50 代 男）  
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名（O157 幼児 男）の報告がありました。

**■定点把握感染症の発生状況**

- 手足口病は、全県ではわずかに減少しましたが、岡山市・備中地域では発生が大幅に増加しました。ひきつづき県内全域で発生が非常に多い状態です。  
 岡山県は注意喚起を行い、感染予防と早めの受診を呼びかけています。  
 ○ヘルパンギーナは今週も増加し、特に岡山市では発生が増加しました。  
 ○流行性耳下腺炎は第 23 週から 4 週つづけて増加しました。

**■【速報】第 28 週 腸管出血性大腸菌感染症 2 名****（O157 30 代 女 1 名、70 代 男 1 名）の発生がありました。**

1. **腸管出血性大腸菌感染症**の発生が 6 月から増加しています。今年は 7 月 15 日現在まで 27 名と例年に比べ発生は少ないものの、第 23 週から 6 週連続で発生がありました。岡山県では**腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令**し、感染予防を呼びかけています。なお、これまでのところ県内では溶血性尿毒症症候群（HUS）や死亡例など、重症化の報告はありません。  
 県内の発生状況・症状・感染予防などについては感染症情報センターホームページ [『腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中！』](#) をご覧下さい。『全数把握感染症患者発生状況』の表への記載は第 29 週以降になります。
2. **手足口病**の定点あたり患者報告数は、先週よりわずかに減少しましたが（10.61 → 10.04 人）、県内全域で大きな流行が発生または継続しつつあると考えられる感染症発生レベル3 が続いています。  
**手足口病**の詳しい症状、予防については、感染症情報センターホームページ [『【注意！】手足口病が流行しています！』](#) をご覧ください。
3. **ヘルパンギーナ**の定点あたり患者報告数は、今週も増加し（3.24 → 4.00 人）、岡山市では発生が大幅に増えました。これまで比較的発生が少なかった備北地域・真庭地域でも増加が見られ、今後さらに発生の増加が考えられます。  
**手足口病、ヘルパンギーナ**の今週の動向については、『**今週の注目感染症**』をご覧ください。
4. **流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）**の定点あたり患者報告数が 23 週から 4 週つづけて増加しました。今年には患者数が多い状態で推移しており、特に倉敷市（定点あたり 3.27 人）では発生が多くなっています。幼児期にかかるとまれに難聴になることもありますので、合併症にも注意してください。

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡		RSウイルス感染症	⬇	
咽頭結膜熱	➡	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★
感染性胃腸炎	➡	★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★★★★★	伝染性紅斑	➡	★
突発性発疹	➡	★★★	百日咳	⬇	★
ヘルパンギーナ	➡	★★★	流行性耳下腺炎	➡	★★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	➡	★
細菌性髄膜炎	➡		無菌性髄膜炎	➡	
マイコプラズマ肺炎	⬆	★	クラミジア肺炎	⬆	★

### 【記号の説明】

前週からの推移： ⬇ 2倍以上の減少    ➡ 1.1～2倍未満の減少    ➡ 1.1未満の増減  
 ➡ 1.1～2倍未満の増加    ⬆ 2倍以上の増加

流行状況： 空白 発生なし ★僅か ★★少し ★★★やや多い ★★★★多い ★★★★★非常に多い

※定点当たり患者数について、過去5年間の標準偏差値に感染症の種類毎に係数を乗じた値を5等分し、流行状況の目安として5段階で表示しています。

## 今週の注目感染症

### 1. 手足口病

手足口病の定点あたり患者数は、先週よりわずかに減少しましたが（573→542人 定点あたり10.61→10.04人）、過去10年のうち発生が一番多かった2002年第30週（定点あたり6.17人）の約1.5倍と非常に多い状態が続いています。

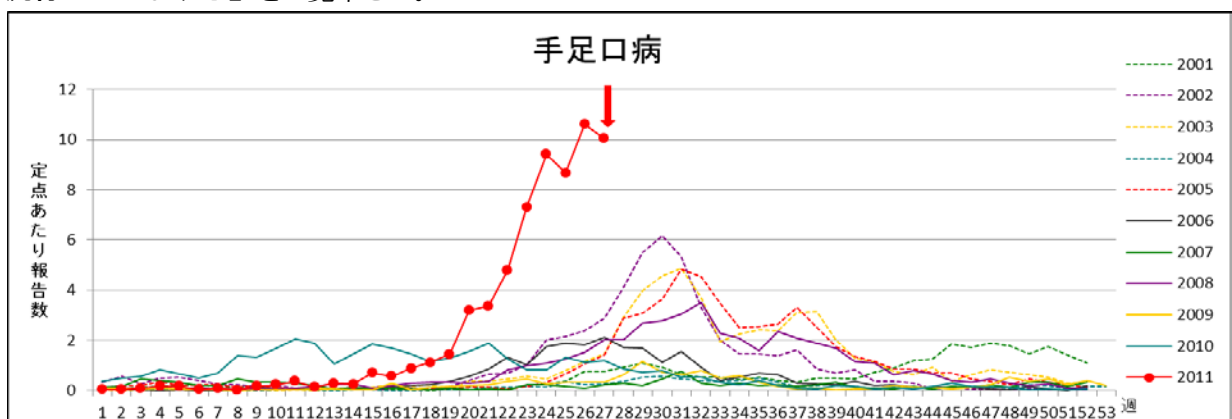
岡山市（13.64→17.36人）、備中地域（7.86→11.43人）では発生が大幅に増え、倉敷市（12.91→8.73人）、備前地域（9.90→6.10人）、備北地域（7.25→5.50人）、真庭地域（9.00→6.50人）、美作地域（6.50→4.50人）では発生は減ったものの感染症発生レベル3が県内全域で継続しています。

患者は3歳以下が65%を占めていますが、患者発生の増加とともに4～6歳での発生も増えています。保育園や幼稚園では集団発生する可能性もありますので、手洗いを励行し、感染予防に努めましょう。

手足口病は、まれに髄膜炎や脳炎を合併することがありますが、岡山県ではこれまでのところ無菌性髄膜炎・脳炎いずれの報告もありません。

岡山県では手足口病患者の咽頭拭い液10件（4月採取1件、5月採取2件、6月採取7件）からコクサッキーウイルスA6型が検出されました。全国的にもコクサッキーウイルスA6型が検出されています。

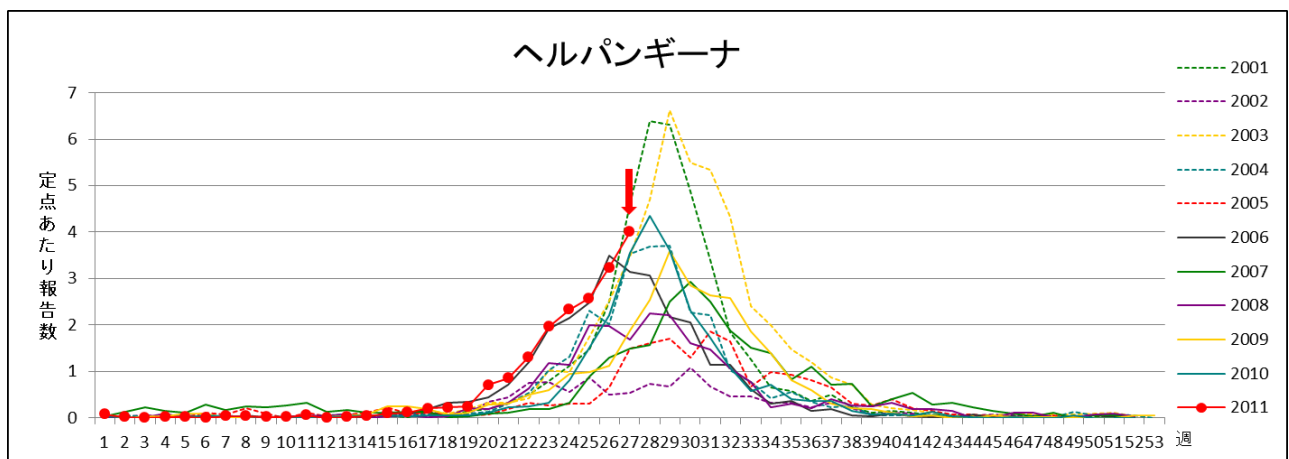
手足口病の症状、感染予防など詳しいことについては、感染症情報センターホームページ『**注意！手足口病が流行しています！**』をご覧ください。





[国立感染症研究所 感染症情報センター 週報第 24 週 \(全国版\)](#)によると、今年の手足口病は、発疹が従来の典型例と比べて大きく、また四肢末端に限らずに広範囲に認められる症例が目立つという、臨床現場からの報告が掲載され、西日本で急激に発生が増加しています。

## 2. ヘルパンギーナ



ヘルパンギーナの定点あたり患者報告数は今週も増加しました（175 → 216人 定点あたり 3.24 → 4.00人）。岡山市（6.43 → 9.07人）で発生が大幅に増加し、備北地域（0.00 → 1.50人）、真庭地域（0.50 → 2.50人）など、これまで比較的発生が少なかった地域でも増加が見られました。過去10年と比べると、7月初旬（第27週）としては2001年（定点あたり4.61人）に次ぐ発生の多い状態であり、早い時期から患者数が増えています。

ヘルパンギーナは、夏に流行する幼児の急性ウイルス性咽頭炎で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。例年、7月中旬に流行のピークがみられ、今後も発生が増加する可能性があります。

患者の年齢は3歳以下の幼児が中心で、全体の60%を占めていますが、4～6歳での発生も約30%に増えていきますので注意が必要です。症状は、突然の発熱につづいて咽頭痛が出現し、口腔内に直径1～2mmの小水疱が出現するのが特徴です。口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、食べ物や水分の摂取ができにくくなり、脱水症につながる可能性がありますので注意が必要です。

岡山県ではヘルパンギーナ患者1名の咽頭拭い液から、**コクサッキーウイルス A6型**が検出されました。全国的にもコクサッキーウイルス A6型が検出されています。

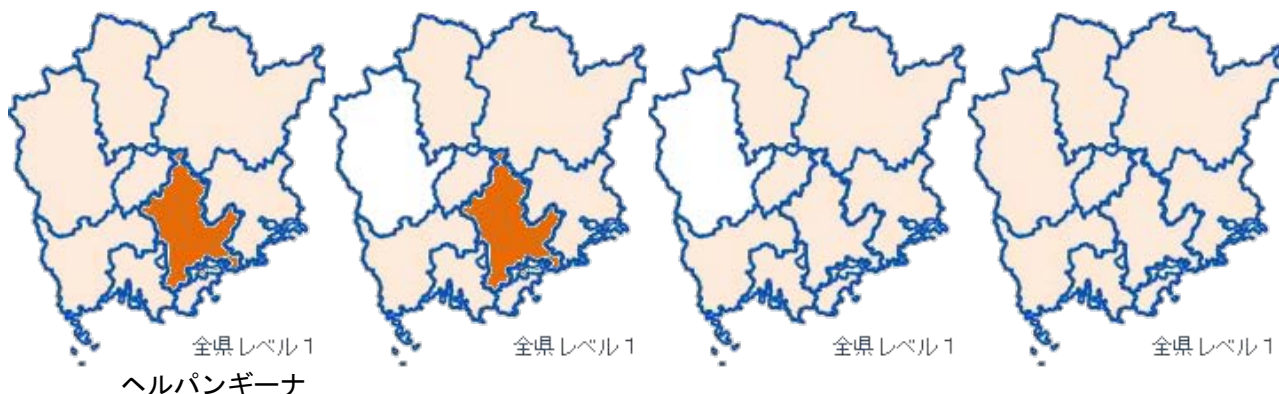
## 感染症マップ ヘルパンギーナ 2011年 27 週

27 週 7/4～

26 週 6/27～

25 週 6/20～

24 週 6/13～



レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
6	2		0 < 6 未満	0

コクサッキーウイルス A6 型は、全国的には、これまでヘルパンギーナ患者から検出される例が多く報告されてきましたが、最近では、手足口病患者からの検出報告が増加しています。今年も、これまでのところ、手足口病患者からの検出報告が大部分を占めています。

詳しくは、[国立感染症研究所 感染症情報センター 病原微生物検出情報](#) をご覧ください。

### 【国立感染症研究所 感染症情報センター 病原微生物検出情報】

今年のコクサッキーウイルスA6型検出状況 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/graph-tj.html>

2007-2011 の手足口病からの検出ウイルス <https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data37j.pdf>

2007-2011 のヘルパンギーナからの検出ウイルス <https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data38j.pdf>

- 夏に流行する手足口病、ヘルパンギーナがひきつづき流行しています。患者数も多くなっており、注意が必要です。
- 保育園、幼稚園などでは集団発生する可能性もあります。症状が治っても、便の中には2～4週間ウイルスが排泄されることがあります。うがい・手洗いを励行し、おむつや便の取り扱いに注意して、感染予防と拡大防止に努めましょう。
- 体調を崩しやすい時期ですので、お子さんの体調の変化に注意して早めに医療機関を受診しましょう。

### 【週報グラフ表示について】

感染症にはそれぞれ流行する時期があります。

春から秋にかけて流行が多い感染症は今年1～53週を1シーズンとして、秋から春にかけて流行が多い感染症は今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。

今回、第27週よりインフルエンザ・RSウイルス感染症・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・水痘については2011-2012シーズンに切り替わりました。

保健所別報告患者数 において **数字** は感染症マップにおいて レベル3  
**数字** は感染症マップにおいて レベル2 を示しています





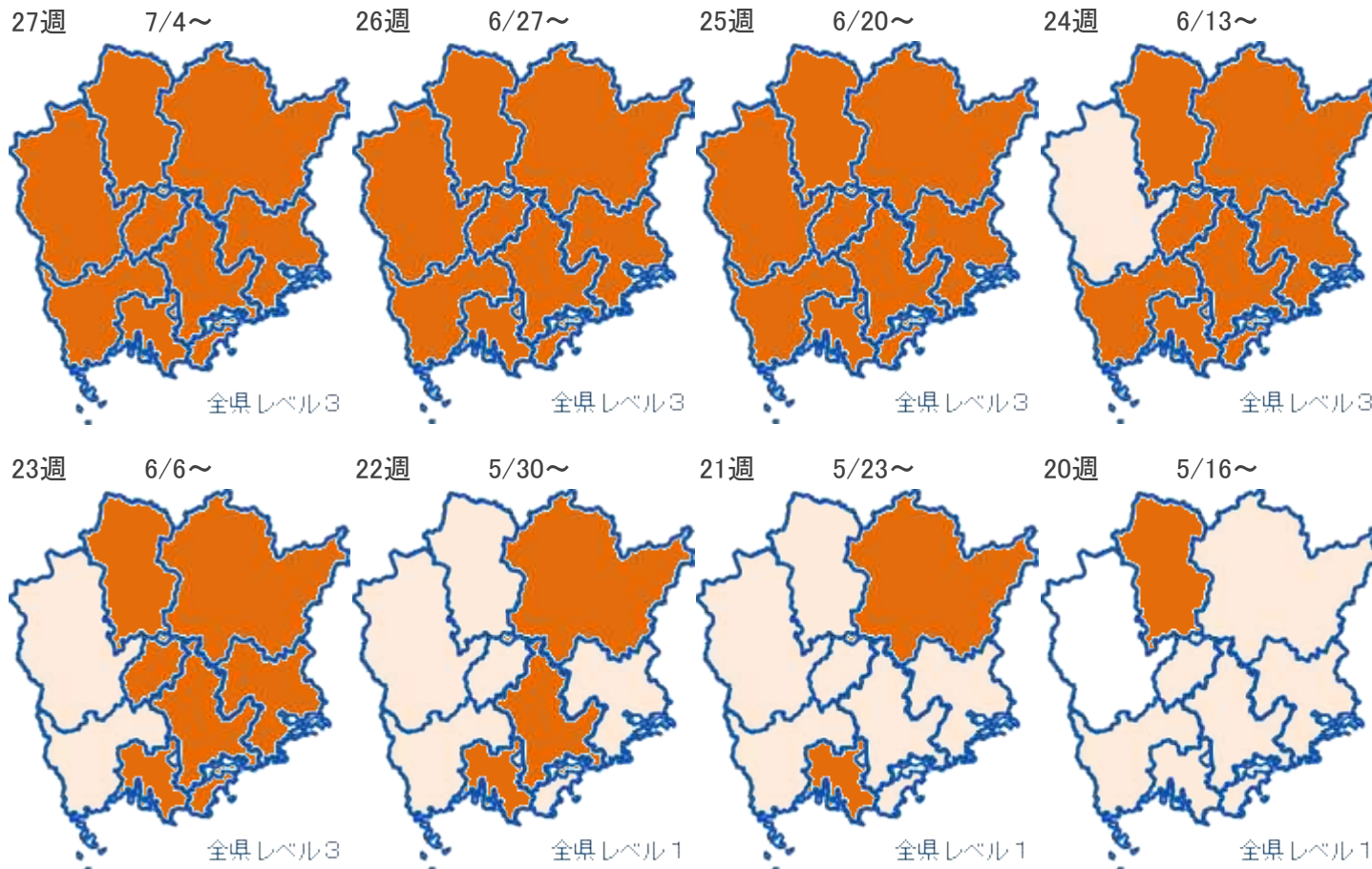
# 岡山県地区別 手足口病感染症マップ 2011年 27週

2011年7月13日

16:26:25



手足口病



レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
5	2		0 < 5未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。

保健所別報告患者数 2011年 27週 (2011/07/04~2011/07/10)

2011年7月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	27	0.50	15	1.07	1	0.09	-	-	-	-	1	0.25	-	-	10	1.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31	0.57	9	0.64	10	0.91	3	0.30	5	0.71	-	-	-	-	4	0.67
感染性胃腸炎	218	4.04	40	2.86	41	3.73	53	5.30	14	2.00	21	5.25	7	3.50	42	7.00
水痘	50	0.93	27	1.93	6	0.55	7	0.70	3	0.43	-	-	3	1.50	4	0.67
手足口病	542	10.04	243	17.36	96	8.73	61	6.10	80	11.43	22	5.50	13	6.50	27	4.50
伝染性紅斑	10	0.19	4	0.29	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	4	0.67
突発性発疹	33	0.61	13	0.93	6	0.55	9	0.90	1	0.14	2	0.50	1	0.50	1	0.17
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	216	4.00	127	9.07	40	3.64	22	2.20	8	1.14	6	1.50	5	2.50	8	1.33
流行性耳下腺炎	89	1.65	22	1.57	36	3.27	17	1.70	11	1.57	-	-	-	-	3	0.50
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	4	0.80	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	3	3.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2011年 27週 (2011/07/04~2011/07/10)

2011年7月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	27	0.50	15	1.07	1	0.09	-	-	-	-	1	0.25	-	-	10	1.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31	0.57	9	0.64	10	0.91	3	0.30	5	0.71	-	-	-	-	4	0.67
感染性胃腸炎	218	4.04	40	2.86	41	3.73	53	5.30	14	2.00	21	5.25	7	3.50	42	7.00
水痘	50	0.93	27	1.93	6	0.55	7	0.70	3	0.43	-	-	3	1.50	4	0.67
手足口病	542	10.04	243	17.36	96	8.73	61	6.10	80	11.43	22	5.50	13	6.50	27	4.50
伝染性紅斑	10	0.19	4	0.29	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	4	0.67
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	216	4.00	127	9.07	40	3.64	22	2.20	8	1.14	6	1.50	5	2.50	8	1.33
流行性耳下腺炎	89	1.65	22	1.57	36	3.27	17	1.70	11	1.57	-	-	-	-	3	0.50
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	4	0.80	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2011年 第27週 2011/07/04~2011/07/10 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	27	-	2	3	7	3	4	4	2	1	-	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31	-	1	-	5	1	8	2	6	4	1	1	2	-	-
感染性胃腸炎	218	4	20	32	22	22	15	16	10	8	12	10	19	4	24
水痘	50	1	5	8	11	4	7	8	-	3	2	-	1	-	-
手足口病	542	7	79	108	85	74	62	51	23	19	13	7	9	1	4
伝染性紅斑	10	-	-	1	-	3	2	1	2	-	1	-	-	-	-
突発性発疹	33	-	18	13	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヘルパンギーナ	216	1	17	47	43	29	28	20	12	8	-	2	6	-	3
流行性耳下腺炎	89	-	-	3	6	13	14	12	10	12	6	6	7	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 )



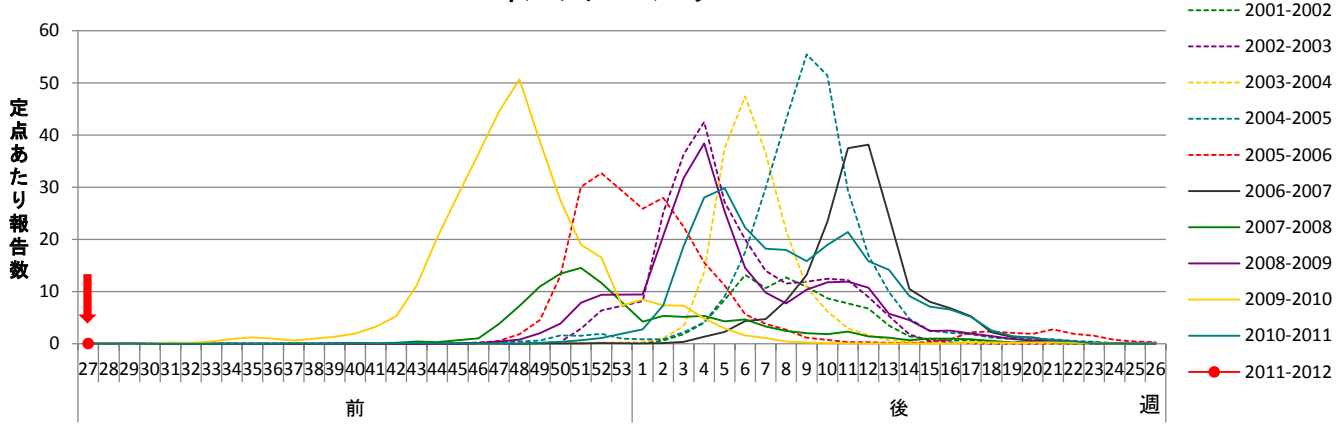
# 全数把握 感染症患者発生状況

2011年 27週

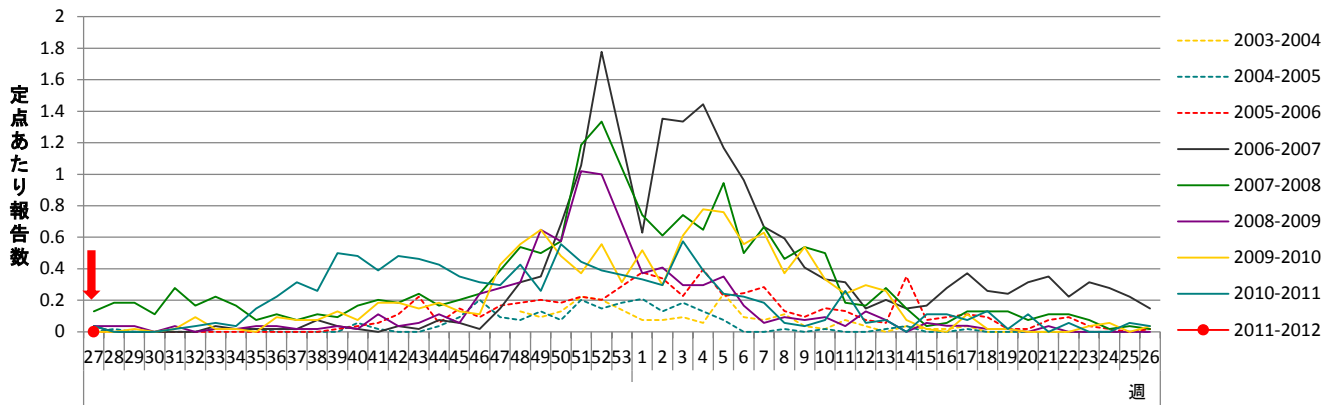
分類	疾病名	2011			疾病名	2011			疾病名	2011		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-								
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	248	352	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-				
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	26	66
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-				
四類	E型肝炎	-	1	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	2
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	2	1	デング熱	-	-	7	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	1	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	1	-
	マラリア	-	-	-	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	7	19	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	5	13	ウイルス性肝炎*3	-	3	7	急性脳炎*4	-	-	1
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	1	1
	後天性免疫不全症候群	-	4	22	ジアルジア症	-	1	5	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	6	9	破傷風	-	1	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	3	風しん	-	-	2
	麻しん	-	3	3								

今週は、岡山市から全数把握感染症患者数が報告されたため、累計が大きく増えているところがあります。  
岡山市からの報告は、一ヶ月に一回累計されます。

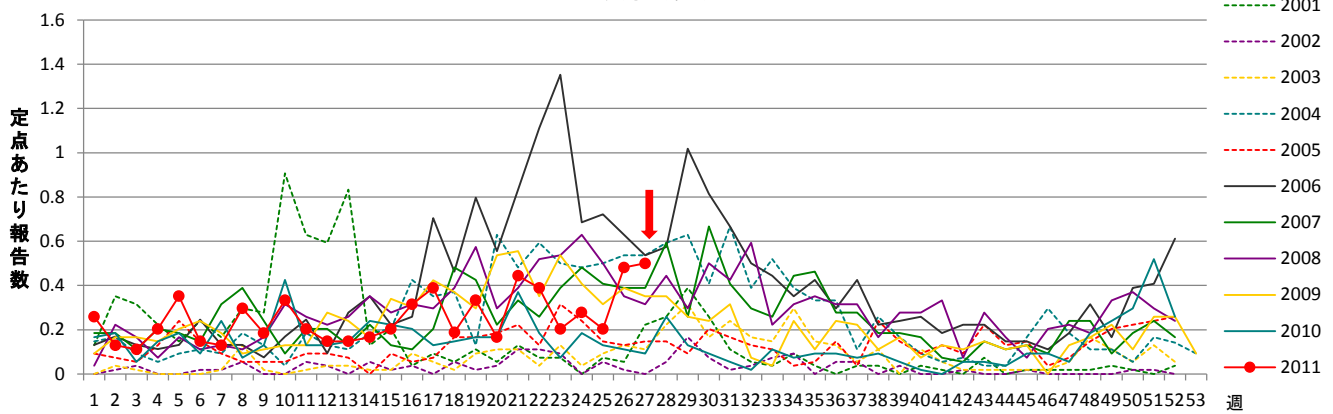
### インフルエンザ



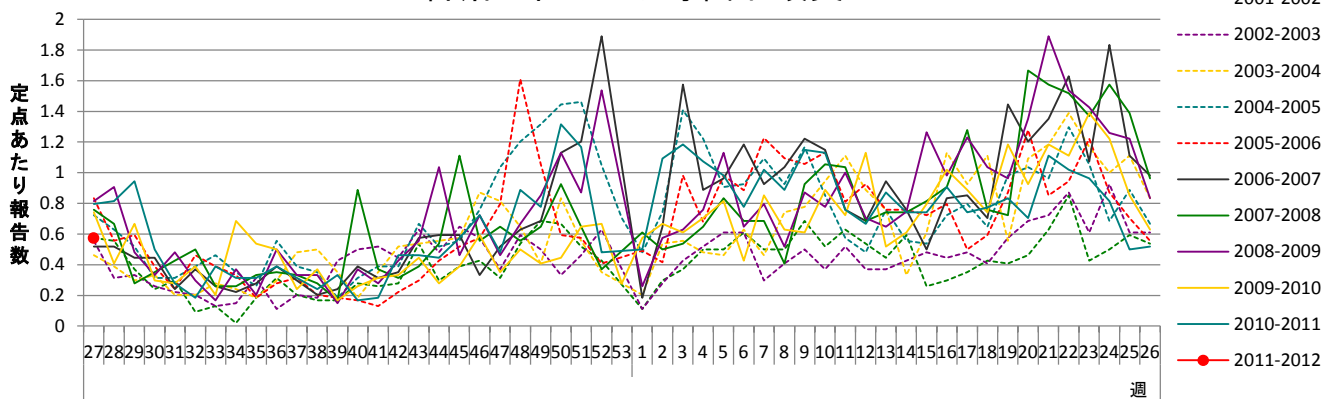
### RSウイルス感染症



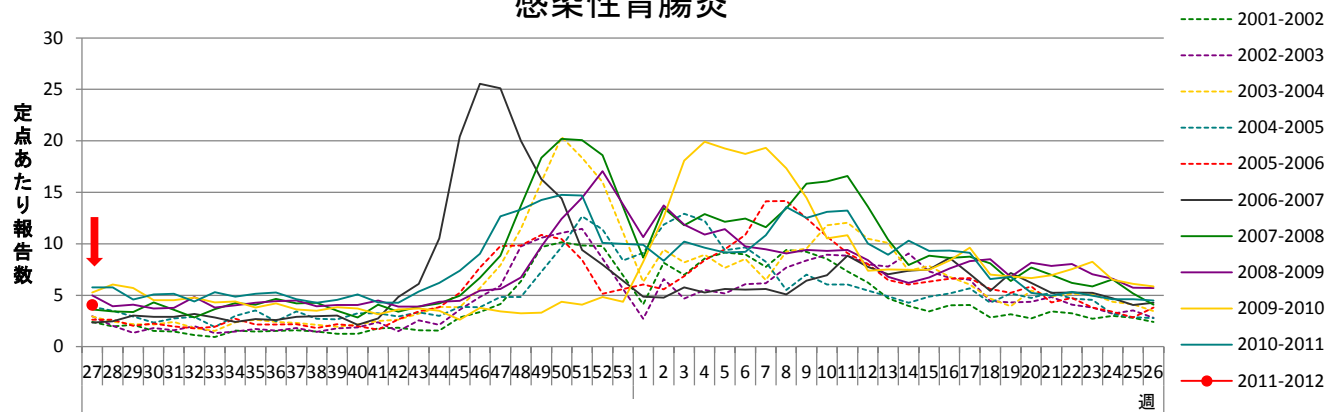
### 咽頭結膜熱



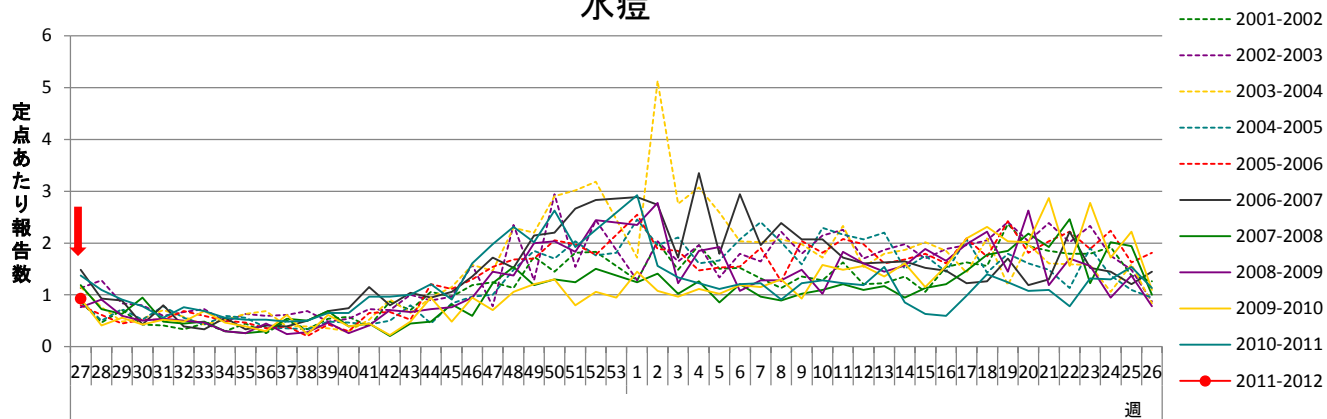
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



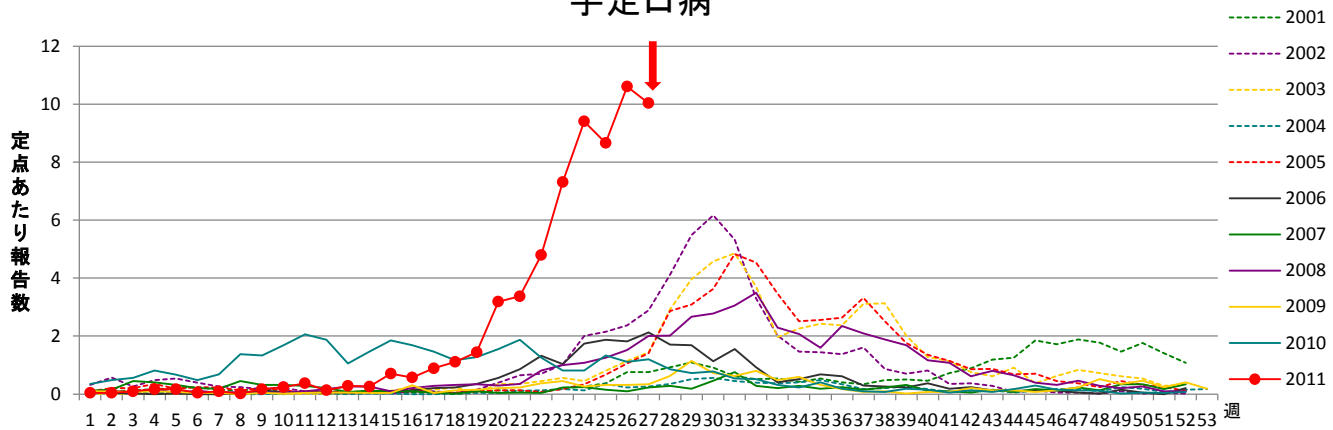
### 感染性胃腸炎



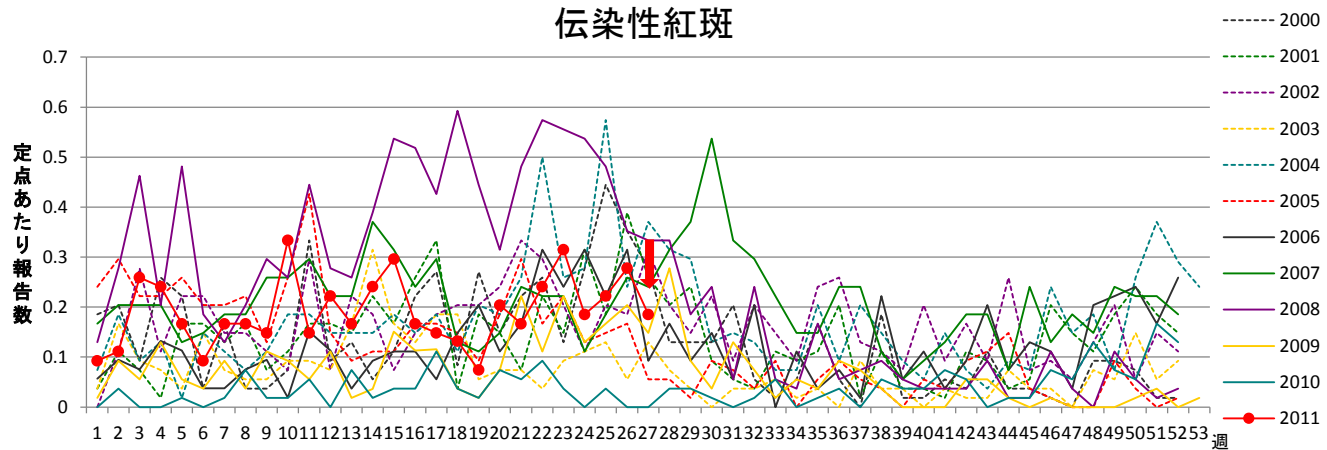
### 水痘



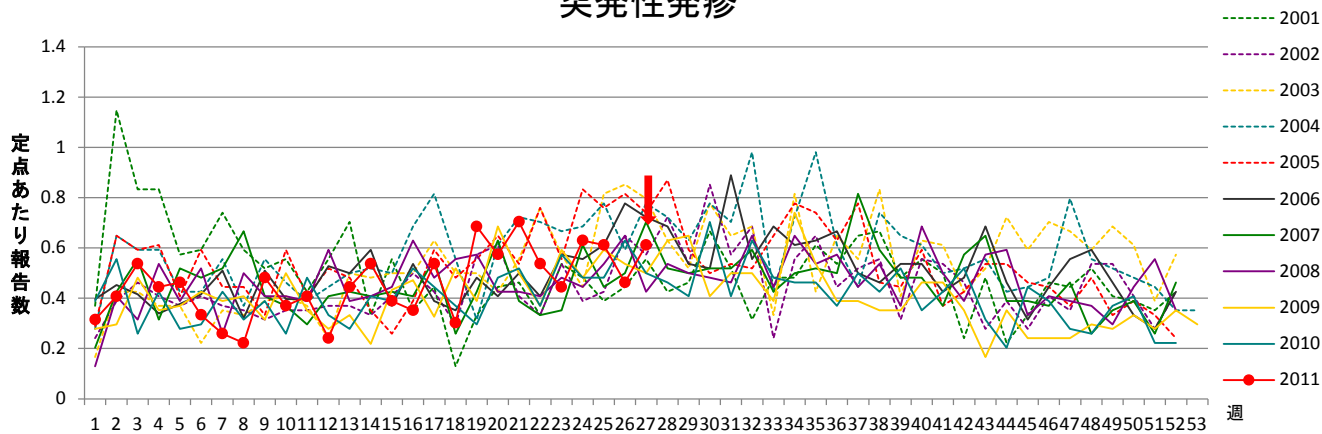
### 手足口病



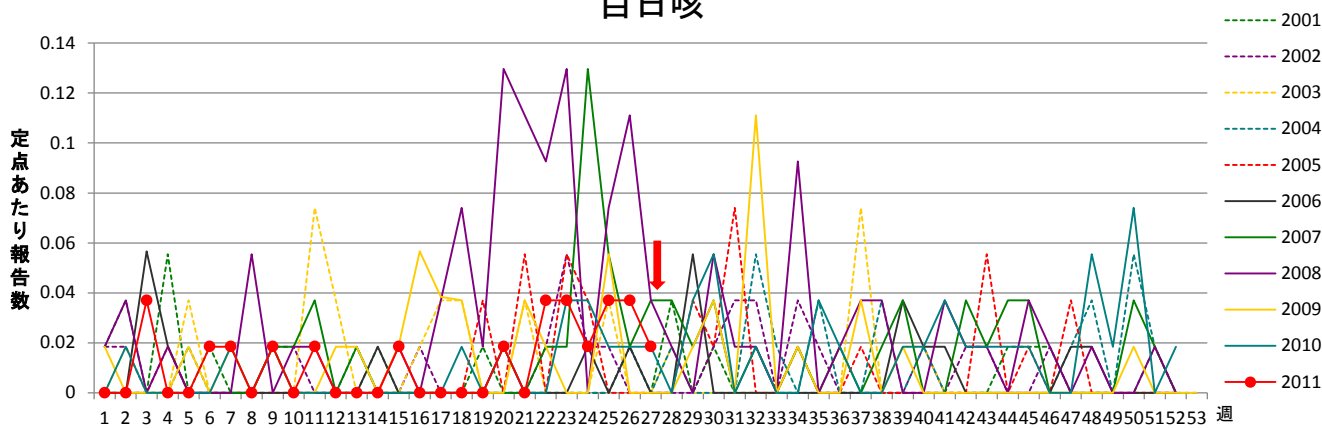
### 伝染性紅斑



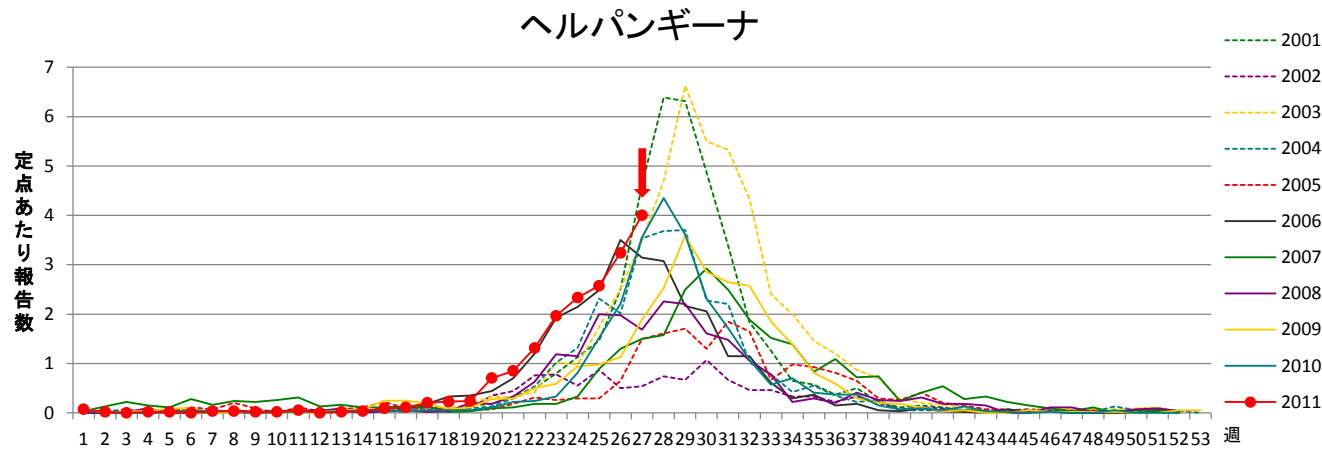
### 突発性発疹



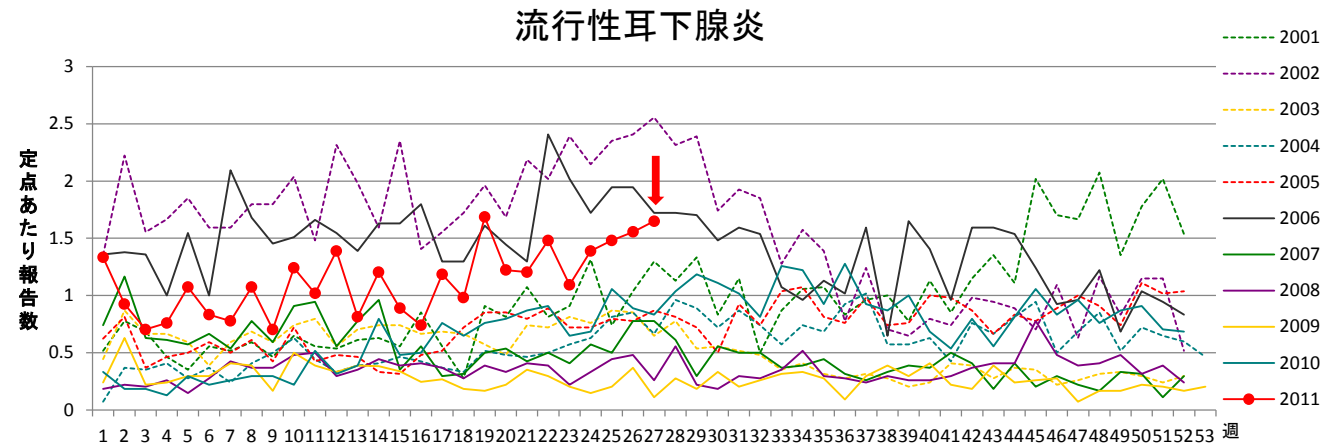
### 百日咳



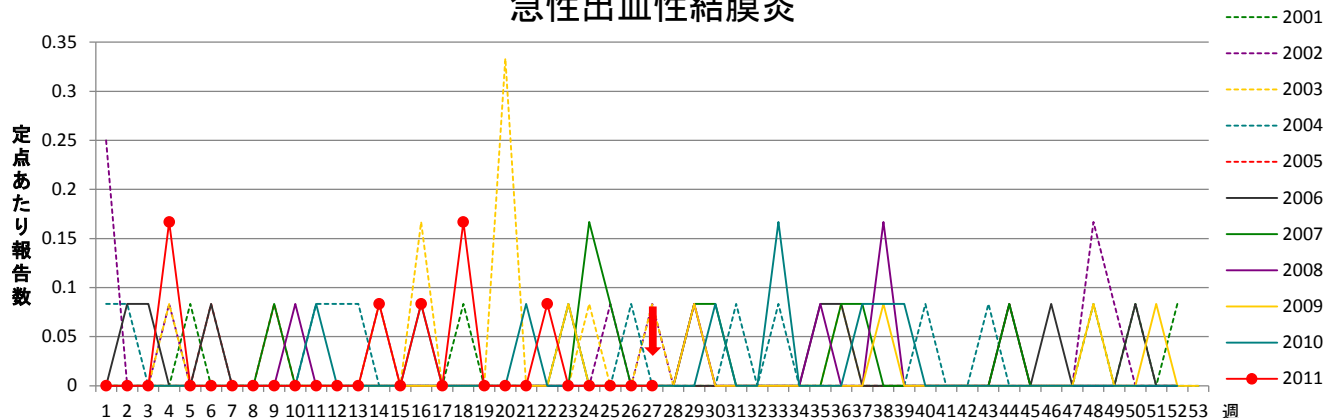
### ヘルパンギーナ



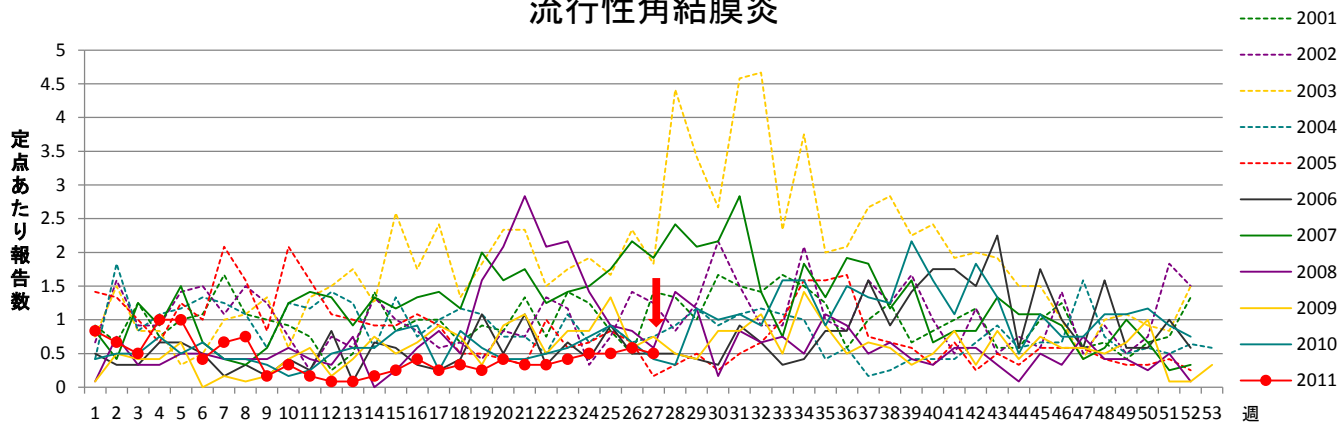
### 流行性耳下腺炎



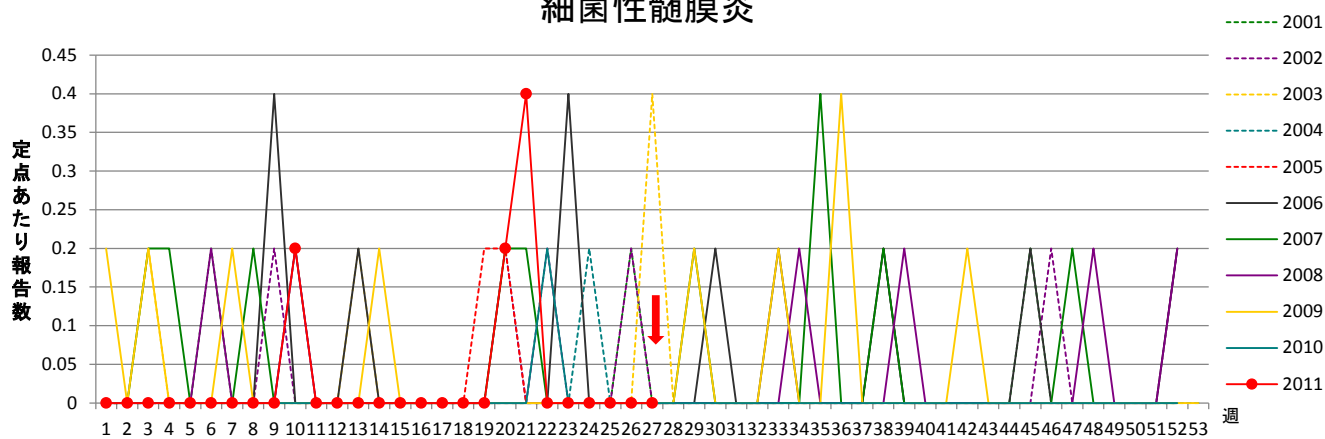
### 急性出血性結膜炎



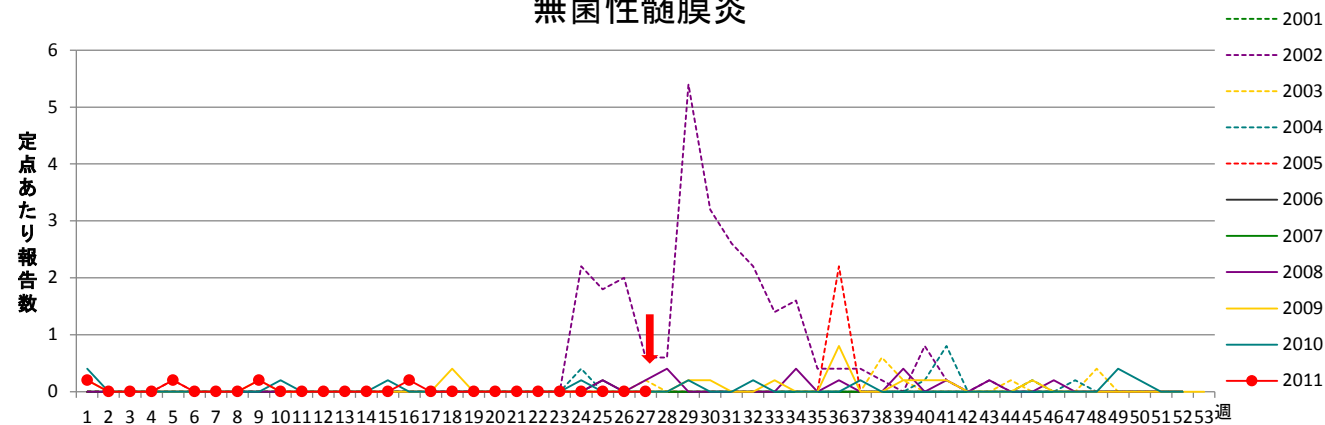
### 流行性角結膜炎



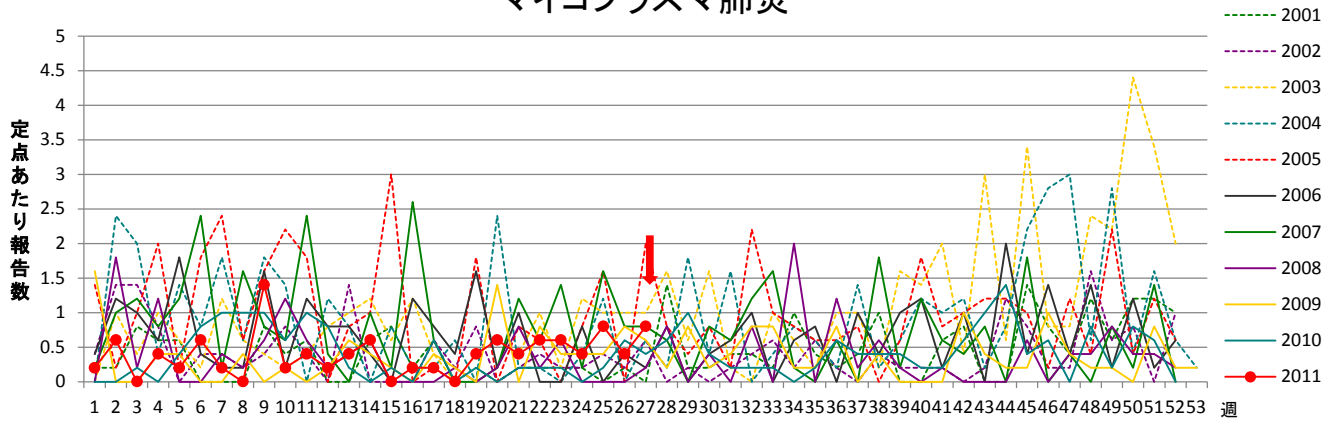
### 細菌性髄膜炎



### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎

